

(10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

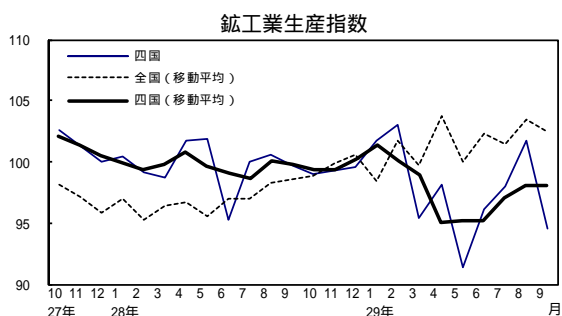
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 29 年 8 月)	今回 (平成 29 年 11 月)	
鉱工業生産	このところ弱含み	<u>おおむね横ばい</u>	
個人消費	底堅く推移	<u>足踏み</u>	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7 - 9月期には、化学・石油石炭製品は、生産計画に伴う医薬品の生産減等から減少した。電気機械は、蓄電池等の生産増から増加した。食料品は、冷凍食品等の生産増から増加した。はん用・生産用機械は、化学繊維機械等の受注が好調なことから増加した。非鉄金属は、電気銀等の生産増から増加した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

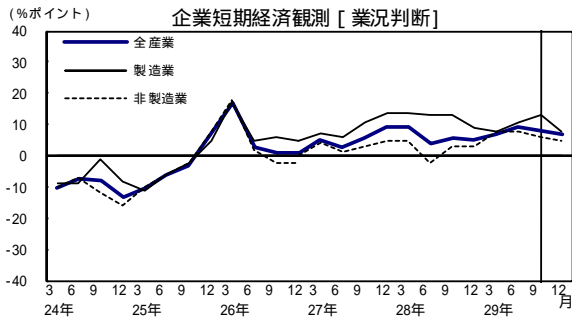
	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
化学石油石炭	22.9	6.3	0.1	5.1	5.5	7.2
電気機械	15.8	10.8	1.1	10.2	4.9	0.2
食料品	10.5	2.6	7.7	1.6	1.3	0.8
はん用・生産用機械	10.0	3.3	0.7	19.3	59.3	32.8
非鉄金属	8.0	1.7	4.8	2.2	2.5	5.2
鉱工業	100.0	4.9	3.0	2.0	3.8	7.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7 - 9月期、9月は速報値

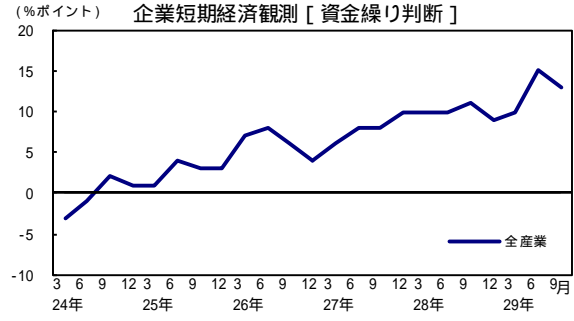
(10) 四国

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超幅が縮小している。

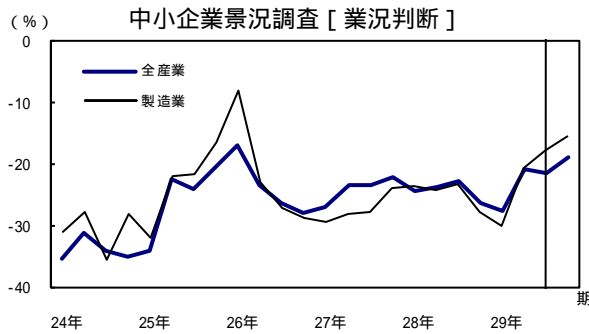
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。29年12月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

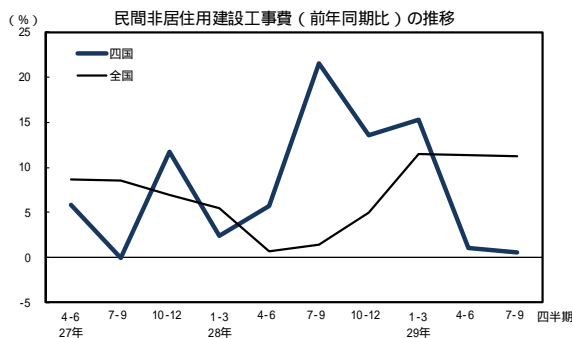


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。29年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「主に再生可能エネルギー関連設備の製造業を営んでいるが、再生可能エネルギーは客の関心が高く、受注が決まっていく状況にある。受注量が増え、大規模な案件が決まっていくので、景気は上向いていると感じる(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べておおむね横ばい。



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	13.0	6.8 (5.0)
製造業	11.5	4.3 (10.0)
非製造業	15.1	22.9 (1.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

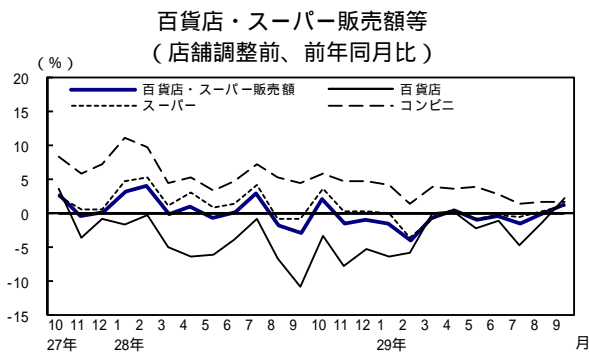
7月は前月比0.6%減、8月は同0.1%減、9月は同0.1%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、衣料品や身の回り品、飲食料品等の動きが鈍く、前年を下回った。8月は、化粧品が堅調に推移し、美術品、時計などの高額品にも動きがみられたが、衣料品や飲食料品の動きが鈍く、前年を下回った。9月は、衣料品がやや伸び悩むも、化粧品が引き続き堅調に推移し、美術品や宝飾、時計などの高額品や、身の回り品にも動きがみられ、前年を上回った。スーパーは、7 - 9月期は、夏物セール伸び悩みで紳士服、婦人服などの衣料品が鈍かったが、飲食料品で肉類や総菜、冷凍食品などが堅調に推移したことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「台風と衆議院選挙の影響で今月はいつにもなく客数が悪い(美容室)」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

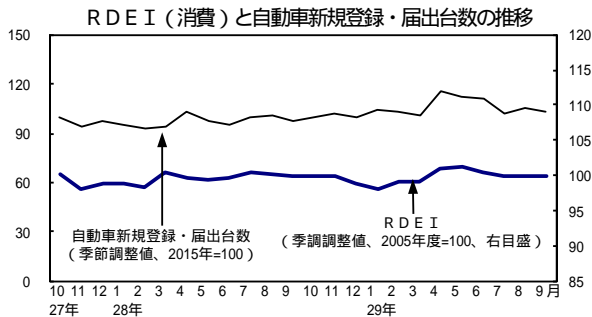


	29年7-9月	29年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	1.1	0.6	0.1	0.1
百貨店・スーパー(*2)	0.1	1.4	0.1	1.3
百貨店(*2)	1.8	4.6	1.4	2.2
スーパー(*2)	0.3	0.5	0.4	1.1
コンビニ(*2)	1.7	1.6	1.8	1.8
乗用車(*3)	4.3	3.1	4.5	5.1
(季節調整値)(*3)	7.9	7.8	3.2	2.1

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

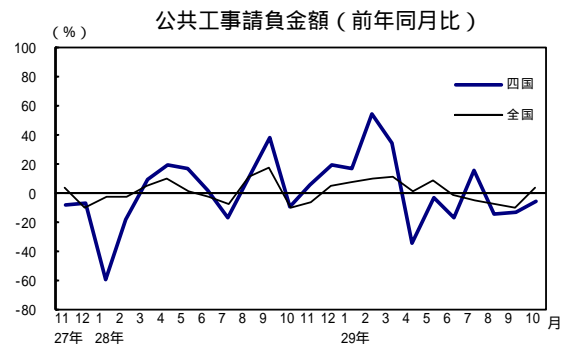
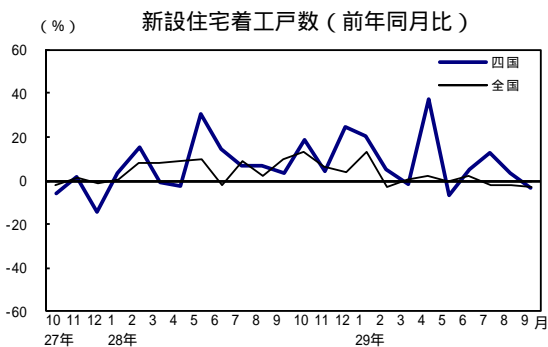
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は前年に比べて増加している。

持家が前年を下回っているものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

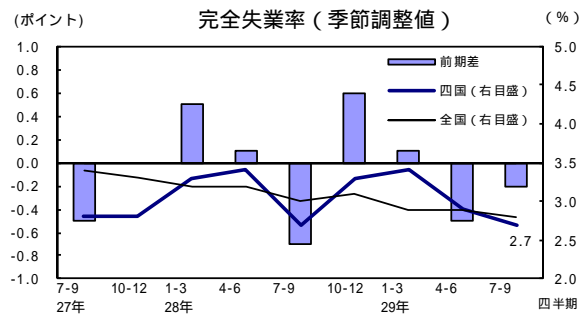
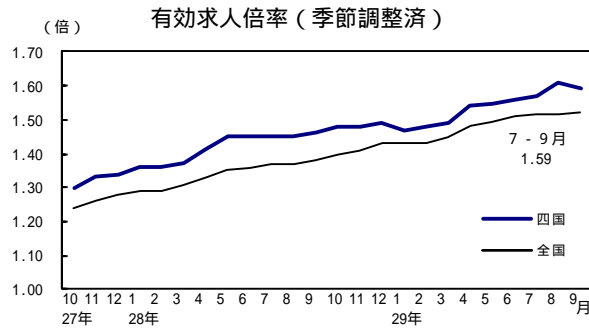
(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



(10) 四国

3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は着実に改善している。
 有効求人倍率及び完全失業率
 有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



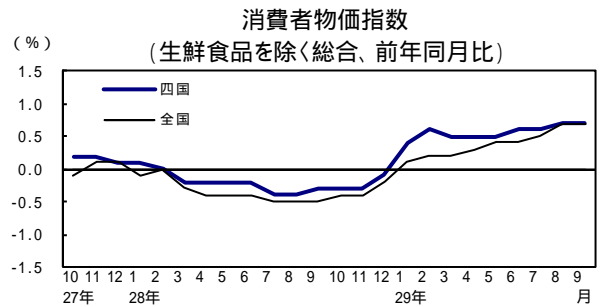
(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [雇用関連 (現状)]
 「求職者の要望や希望と、企業の求人ニーズと相違する場合が多い (民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

- (2) 企業倒産は前年に比べて件数は減少しているものの、負債総額は増加している。
 (3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	28年10-12月	29年1-3月	4-6月	7-9月	29年10月
倒産件数	27	30	42	30	10
(前年比)	42.6	31.8	13.5	21.1	25.0
負債総額	67	67	115	53	11
(前年比)	19.4	43.1	12.1	26.6	65.2



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・計画より受注が増加しており、年末に向かって良くなっていくと思われる (パルプ・紙・紙加工品製造業)

<先行き>

- ・街の中心部では空き地に建物が建つようになってきたが、郊外では住宅もあまり売れなくなってきた (設計事務所)

